(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3663523号
(P3663523)
(45)発行日　平成17年6月22日(2005.6.22)　(24)登録日　平成17年4月8日(2005.4.8)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B65D 85/42　B65D 85/42 B

請求項の数 4　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平7-304999
(22)出願日　平成7年10月30日(1995.10.30)
(65)公開番号　特開平9-124085
(43)公開日　平成9年5月13日(1997.5.13)
審査請求日　平成12年1月27日(2000.1.27)
審判番号　不服2002-19990(P2002-19990/J1)
審判請求日　平成14年9月5日(2002.9.5)

(73)特許権者　000002912
大日本製薬株式会社
大阪府大阪市中央区道修町２丁目６番８号
(73)特許権者　591037476
株式会社岩田レーベル
愛知県一宮市三ッ井５丁目１５番１８号
(74)代理人　100074387
弁理士　松永　善蔵
(72)発明者　田中　照和
大阪府大阪市東住吉区南田辺２－１０－１
(72)発明者　吉田　八郎
大阪府高槻市南総持寺町５番３３－４０６
(72)発明者　石原　勝昌
愛知県一宮市丹陽町三ッ井１５３７－２

最終頁に続く

(54)【発明の名称】破瓶防止用包装体で包被したアンプルおよびその包装体

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

アンプルの全長より長く、アンプルの胴部を一周以上捲回する幅を有し、アンプルのくびれ付近に該当する部分に全幅にわたり切り取り線を設け、アンプルの胴部に該当する部分の裏面に貼り付け用の粘着剤を塗付し、アンプルを包囲して内容物が透視でき、アンプルに巻いたときの端部は円筒形のままとし、アンプルを縦置きしたときに自立することができるアンプルにおいて、アンプルに捲回したときにアンプルの胴径より突出する係止片をアンプル頭部が該当する部分に設けたことを特徴とする破瓶防止用包装体を貼り付けたアンプル。

【請求項２】

アンプルの全長より長く、アンプルの胴部を一周以上捲回する幅を有し、アンプルのくびれ付近に該当する部分に全幅にわたり切り取り線を設け、アンプルの胴部に該当する部分の裏面に貼り付け用の粘着剤を塗付し、アンプルを包囲して内容物が透視でき、アンプルに巻いたときの端部は円筒形のままとし、アンプルを縦置きしたときに自立することができるアンプルにおいて、アンプルに捲回したときにアンプルの胴径より突出する係止片をアンプル頭部が該当する部分に設けたことを特徴とする請求項１記載の破瓶防止用包装体。

【請求項３】

アンプルの胴部に該当する部分に、必要な表示を施したことを特徴とする請求項２記載の破瓶防止用包装体。

【請求項４】
アンプルに捲回したときの最終縁より突出し、または前記貼り付け用の粘着剤の無い部分に、一部を閉じた切れ目を設けてなる係止片の、いずれか一方または双方を設けたことを特徴とする請求項２、請求項３いずれかに記載の破瓶防止用包装体。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、破瓶防止用包装体で包被したアンプルおよびその包装体に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来のアンプル製剤は、薬品メーカーから病院までの運搬途中において、その破瓶を防止するために、５本ないし１０本をプラスチックトレイや、紙製波ケース（ロンドレーション）に収納するという手段があったが、それではアンプルの枝部先端、アンプル底部には十分な効果がなく、破瓶するものがあった。さらに病院内においては、アンプルを１本づつ取り出して投与準備をする際に、ケースからの取り出しミスで落としたり、取り出して机上に置いたときに転動落下して、破瓶する事故が頻繁に起こっていた。これは破瓶を防止するようにアンプルを１本づつ包装することによって防げるのであるが、それによって開封が簡便でなくなり、また開封前に内容物の確認ができないという欠点を持っている。またこのアンプルを一本づつステイック状に包装する考えは、その包装工程において印字などの表示と包装の二工程となり、さらに包装材がアンプル自体の約二倍の大きさとなるという欠点があった。これは麻酔薬などの製剤は金庫などに隔離保管されるため、包装サイズが大きくなると収納しきれなくなり、したがってこのような考えは実施にあたって問題があった。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
この発明は破瓶を防止して、アンプルの取り扱いに便利な破瓶防止用包装体を用いたアンプルとその破瓶防止用包装体を得ることを目的とする。この発明では病院での破瓶事故の調査結果として、アンプルが管瓶体であることから、落下したときにとくに、その枝部（頭部）先端、アンプル底部のガラス肉厚の薄い部分およびイージーカットマーク部分が破瓶し易く、また破瓶したときにはガラス片の飛散がひどいことに着目して、アンプルに捲回したときにアンプルの胴径より突出する係止片をアンプル頭部が該当する部分に設けた破瓶防止用包装体により、転動を防止し、合わせて包装体をアンプル長より長くすることで、アンプルが落下した場合でも、包装体の弾性によって、それらの脆弱な部分が直接、床面などに当たらないようにしたものである。
【０００４】
【課題を解決するための手段】
アンプルの全長より長く、アンプルの胴部を一周以上捲回する幅を有し、アンプルのくびれ付近に該当する部分に全幅にわたり切り取り線を設け、アンプルの胴部に該当する部分の裏面に貼り付け用の粘着剤を塗付し、アンプルを包囲して内容物が透視でき、アンプルに巻いたときの端部は円筒形のままとし、アンプルを縦置きしたときに自立することができるアンプルにおいて、アンプルに捲回したときにアンプルの胴径より突出する係止片をアンプル頭部が該当する部分に設けたことを特徴とする破瓶防止用包装体を貼り付けたアンプル、アンプルの全長より長く、アンプルの胴部を一周以上捲回する幅を有し、アンプルのくびれ付近に該当する部分に全幅にわたり切り取り線を設け、アンプルの胴部に該当する部分の裏面に貼り付け用の粘着剤を塗付し、アンプルを包囲して内容物が透視でき、アンプルに巻いたときの端部は円筒形のままとし、アンプルを縦置きしたときに自立することができるアンプルにおいて、アンプルに捲回したときにアンプルの胴径より突出する係止片をアンプル頭部が該当する部分に設けたことを特徴とする前記記載の破瓶防止用包装体、アンプルの胴部に該当する部分に、必要な表示を施したことを特徴とする前記記載

の破瓶防止用包装体、およびアンプルに捲回したときの最終縁より突出し、または前記貼り付け用の粘着剤の無い部分に、一部を閉じた切れ目を設けてなる係止片の、いずれか一方または双方を設けたことを特徴とする前記記載の破瓶防止用包装体の構成とする。

【０００５】

【発明の実施の形態】

この発明の破瓶防止用包装体（Ｂ）によって包被したアンプル（Ａ）は、破瓶防止用包装体（Ｂ）が透明体で形成されているので、アンプル（Ａ）に施されたイージーカットマーク（Ｍ）が外部からよく分かり、そのイージーカットマーク（Ｍ）の部分を捲回した破瓶防止用包装体（Ｂ）の上から押すことによって、破瓶防止用包装体（Ｂ）を施したまま、アンプル（Ａ）を開封することができる。すなわち開封の際、手指（拇指と人差し指）で挟んで、イージーカットマーク（Ｍ）の部分を押すように力を加えると、イージーカットマーク（Ｍ）の下部分に該当する部分に施されている切り取り線（３）によって、容易に破瓶防止用包装体（Ｂ）の上部分が外れる。そしてこのアンプル（Ａ）の切断時にはガラス微粉末が発生するとしても、それは破瓶防止用包装体（Ｂ）の帯電性によって破瓶防止用包装体（Ｂ）に吸着されるので、アンプル（Ａ）内部の液体に、このガラス微粉末が混入することを防止する。とくに破瓶防止用包装体（Ｂ）の頭部（２）に該当する端縁（ｅ）に設けた係止片（ｆ）などによって、アンプル（Ａ）を横置きとしても転動することを防止し、アンプル（Ａ）が机上、作業台などの高所から落下して破損することを防止する。合わせて破瓶防止用包装体（Ｂ）をアンプル（Ａ）に巻いたときの底部を含む端部は、円筒形（ｒ）のままとすることによって、アンプル（Ａ）を縦置きしたときには自立することができ、梱包、整頓するにあたり便利である。

【０００６】

【実施例】

図１に示すのはこの発明の破瓶防止用包装体（Ｂ）を示し、通常、それはセパレーター（Ｓ）上に複数枚を整然と配列されている。この破瓶防止用包装体（Ｂ）は透明材で構成される。図２を参照しながら説明すると、破瓶防止用包装体（Ｂ）の全長（ａ）は薬液の収納する対象のアンプル（Ａ）の全長よりやや長く形成し、その幅（ｂ）は対象とするアンプル（Ａ）の胴部（１）を一周以上、捲回する幅を有し、アンプル（Ａ）の頭部（２）に施される（ワンポイント）イージーカットマーク（Ｍ）下方部分に、全長にわたり切り取り線（３）を設け、アンプル（Ａ）の胴部（１）に該当する部分の裏面に貼り付け用の粘着剤（４）を塗付し、アンプル（Ａ）に捲回したとき頭部（２）の最終縁に該当する端縁（ｅ）に、それより突出する係止片（ｆ）を設ける。なお（Ｄ）はアンプル（Ａ）の胴部（１）に該当する部分に施す内容物の品名やその他の表示部である。

【０００７】

図２はこの発明の破瓶防止用包装体（Ｂ）をアンプル（Ａ）に使用した状態を示し、それはアンプル（Ａ）の周囲に一回以上、捲回して使用する。その際、頭部（２）の最終縁に該当する端縁（ｅ）に、それより突出する係止片（ｆ）を設けてあるので、それがやや起立状態となっている。この係止片（ｆ）の部分には何らかの着色を施してもよい。このように包被したアンプル（Ａ）は破瓶防止用包装体（Ｂ）が透明体で形成されているので、イージーカットマーク（Ｍ）がよく分かりそのまま開封できる。その際、手指でイージーカットマーク（Ｍ）の部分を押すように力を加えると、イージーカットマーク（Ｍ）の下方に施されている切り取り線（３）によって、容易に破瓶防止用包装体（Ｂ）の上部分、つまりアンプル（Ａ）の頭部（２）を内包する部分が外れる。

【０００８】

そしてこのアンプル（Ａ）の頭部（２）の切断時にガラス微粉末が発生するとしても、それは破瓶防止用包装体（Ｂ）の帯電性によって、破瓶防止用包装体（Ｂ）に吸着され、アンプル（Ａ）内部の液体に、このガラス微粉末が混入することを防止する。とくに頭部（２）に該当する端縁（ｅ）に設けた係止片（ｆ）によって、アンプル（Ａ）を横置きとしたときに転動することを防止し、アンプル（Ａ）が机上などから落ちて破損することによる破瓶防止に役立つものである。また図３に示すように、破瓶防止用包装体（Ｂ）をアン

プル（Ａ）に巻いたときの端部は、円筒形（ｒ）のままとなっているので、縦置きしたときには自立することができる。前記図１において（ｆ’）は、係止片（ｆ）の他の係止片として、破瓶防止用包装体（Ｂ）の粘着剤（４）の無い部分、すなわち頭部（２）を包被する部分に一部を閉じた切れ目（ｃ）［位置、形状、数は自由］を設けて形成したものであり、破瓶防止用包装体（Ｂ）をアンプル（Ａ）に捲回したときに、アンプル（Ａ）の胴径より突出して、前記同様にその転動を防止することとなる。これらの係止片（ｆ），（ｆ’）はその何れか一方、または双方を設けてもよい。

【０００９】

【発明の効果】

この発明の破瓶防止用包装体（Ｂ）によって包被したアンプル（Ａ）は、破瓶防止用包装体（Ｂ）が透明体で形成されているので、アンプル（Ａ）に施されたイージーカットマーク（Ｍ）が外部からよく分かり、そのイージーカットマーク（Ｍ）の部分を捲回した破瓶防止用包装体（Ｂ）の上から押すことによって、破瓶防止用包装体（Ｂ）を施したままアンプル（Ａ）を開封できる。すなわち開封の際、手指（拇指と人差し指）で挟んでイージーカットマーク（Ｍ）の部分を押すように力を加えると、イージーカットマーク（Ｍ）の下部分に該当する部分に施されている切り取り線によって、容易に破瓶防止用包装体（Ｂ）の上部分が外れる。このアンプル（Ａ）の切断時にはガラス微粉末が発生するとしても、それは破瓶防止用包装体（Ｂ）の帯電性によって破瓶防止用包装体（Ｂ）に吸着され、アンプル（Ａ）内部の液体にこのガラス微粉末が混入することを防止する。とくに破瓶防止用包装体（Ｂ）のアンプル（Ａ）の頭部（２）に該当する部分の端縁（ｅ）に設けた係止片（ｆ）などによって、アンプル（Ａ）を横置きとしても転動することを防止し、アンプル（Ａ）が机上などから落下して破損することを防止する。合わせて破瓶防止用包装体（Ｂ）をアンプル（Ａ）に巻いたときの端部は、円筒形（ｒ）のままとすることによって、アンプル（Ａ）を縦置きしたときには自立することができ、梱包、整頓するにあたり便利である。なお破瓶防止用包装体（Ｂ）が透明体で形成されているので、アンプル（Ａ）内の薬液の存在を確認することができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】この発明の破瓶防止用包装体をセパレーター上に配列した状態を示す図。

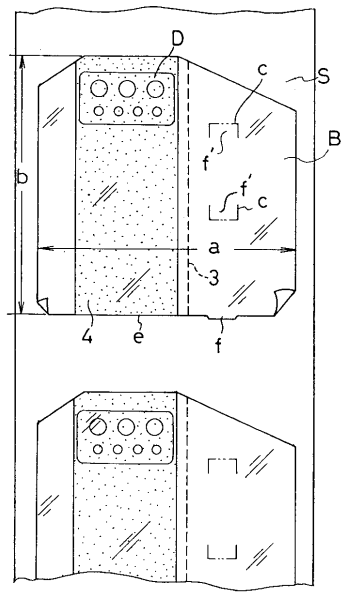
【図２】この発明の破瓶防止用包装体をアンプルに捲回し、横置きの状態とした図。

【図３】この発明の破瓶防止用包装体をアンプルに捲回し、縦置きの状態とした図。

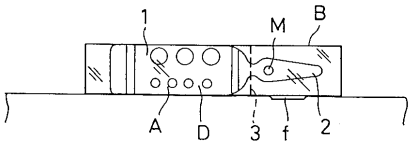
【符号の説明】

（Ａ）　アンプル
（Ｄ）　表示部
（Ｂ）　破瓶防止用包装体
（Ｍ）　イージーカットマーク
（Ｓ）　セパレーター
（ｃ）　切れ目
（ｅ）　端縁
（ｆ），（ｆ’）　係止片
（ｒ）　円筒体
（１）　胴部
（２）　頭部
（３）　切り取り線
（４）　粘着剤

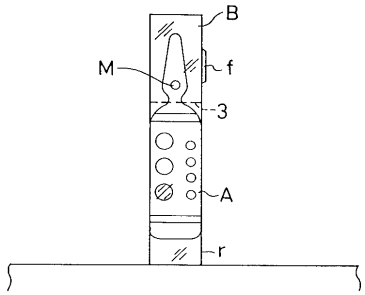
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(72)発明者　安藤　昭好
愛知県一宮市丹陽町三ッ井１０２０番地株式会社岩田レーベル内

合議体
審判長　寺本　光生
審判官　溝渕　良一
審判官　市野　要助

(56)参考文献　実開平３－４９９６９（ＪＰ，Ｕ）
特開平５－２２１４１２（ＪＰ，Ａ）
実公昭２３－１９９６（ＪＰ，Ｙ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.^{7}，ＤＢ名)
B65D85/42